



謡曲舞傳十八ヶ條

特別
子12
3643
34





一 調二機之聲耳

勤ドウ十分シウブン心シン動ドウ七分シチブン身シン

旋セン身シン動ドウ宿イウ足ソク踏タフ旋セン足ソク踏タフ宿イウ身シン動ドウ

先セン聞モン後ゴ見ケン

先セン能ノウ其ゴ物モツ成セイ去コ能ノウ其ゴ態タイ似ス



舞^ブ者^{シヤ}爲^ハ根^{コン}聲^{セイ}

題目^{ダイ}六^{モク}條^{ジョウ}已^イ上^{ジョウ}

時^シ節^{セツ}當^{タウ}感^{カン}

序^{ジヨ}破^ハ急^{キウ}

知^チ習^{ジユ}道^{ダウ}

上^{シヤウ}年^{ネン}之^ノ知^チ感^{カン}

淺^{セン}深^{シン}

幽^{イウ}玄^{ゲン}之^ノ入^ニ塚^{ツカ}

却^{コク}之^ノ入^ニ用^{ヨウ}心^{シン}

万能縮一心
ヨロヅ ヨノウ ノウシ イウシ
ツラヌク エツラコノ

妙所
シヤウ
メヘナレ トコロ

比辨
ヒビ
メクヒラ ワカツ

音羽道
ニ音わくせ

真段十二ヶ條
合十ヶ條也

一調二機三聲音曲開口初聲

調子をバ機ゲリはあり。あきりのい〜
を祐とりて、きよあまをす〜して、目を
あつれて息イキとうちへひ吸あて吸けてあまを
あせハ言先トノ畧こつさきてう〜のあうよりいける
なりてう〜ぞうりを祐とるきよあま
せす〜こゑとい〜せ〜こゑさき調子

よあふるはくあぐなりて〜をバ
きよこめてこゝ急とせすぐゆへは二調二機
之あまといはさるゝもるなり又、云調子をバ
機よてもちあまとい調子よめて出〜
文字といひひるあ〜まうつ〜
よもかくぬやとの曲とバウかのふり
何う成りてあひま〜べ〜能く心中

よあて、念ろ〜すべきなり

宮^{ニヤ}高上下あり成^{オス}文^{アヤラ}調^{イフ}音^{カント}之^{コレラ}

宮^{イン}陰地^チ呂^{リヨ}出^{イニ}息^{イキ}尚^{オホ}陽^{ヨウ} 天^{テン}律^{リツ}入^{イリ}息^{イキ}

呂^{リツ}律^{リツ}合^{カウ}あま上下云

琴^{アヤラ}文^{ワカテ}分^コみ者^{ラン}成^{ナス}十二^{リツ}律^{リヨ}呂^{リツ}六^{リツ}律^{リツ}六^{リツ}

勤^{ウツカシ}十^{シウ}分^{フン}心^{シン}筋^{ワカス}七^{シチ}分^{フン}身^ミ

心^{シン}成^{ナス}十^{シウ}分^{フン}ようこ〜て身と七分ようこ

くせは習う所の心をば——あ——と——こ
うする所の心をば——入るままでう——と
その筋とよく——きき——めてのちさ——
ひも——とち——と——あ——とよ——う——う——と
ら——う——より——うちよひ——う——なるなり——は——う——あ——
き——舞——と——い——ま——よ——か——ま——は——は——く——ず——き——
あ——ま——よ——身——づ——い——ま——で——も——心——より——い——ま——は——

——してたちを——も——ハ——身——ハ——舞——あり
心——用——よ——なり——て——あり——ろ——き——感——ある——べ——

跪身初省足踏
跪足踏省身動

是も大——く——さ——ま——の——心——十——分——の——心——なり——身——と
あ——き——お——る——い——や——よ——う——い——け——い——あ——く——い——あ——
なり——身——法——は——く——よ——時——足——と——ぬ——ま——め——い——く——る——う——と——ハ

見ゆまじしあゝかゝあをほよくあむ時
身と志つうようかせどあおといたうきおも
刃れきづうーあるまよりてあゝくい見へぬこ
これとあまら見聞同心なりぬ亦あま
私合よ成てありーろきかんありろく志を
是とあまらまらるる舞をいぬいあらむべ
可よのまらまらあま福をめぐあゝー

先聞見後

一切のあま福風解ハ云ふれ志ありより
このまらあま福をめぐあゝくい見へぬこ
あまらまらまらあま福をめぐあゝくい見へ
ゆゝーるありまらあま福をめぐあゝくい見へ
後まらまらまらあま福をめぐあゝくい見へ

いささかしてはてなせりとすたくおくるし
やうよたはたよまへくちよりぬる　いんゆわ
如ようつあさひよそ見せ成就すは感
ありたさくいあへとさゆひよいたへんかんと
あを人よまうたてそのしんせよのちか
とくも　あしよ神をうけよあしあふれ
よてあまなるなりあへんかへんかいあふ

袖をうかよあつまいとはがとくまてのいさ
ゆよとあまそとまるななりけあ程ふあぞ
がさきよとて　とくるきしあつあつ
れいあまのまてあまのくまうゆよいあまう
てのまよとんをよとせ

先能其功成去能其德三スル似

其およよくあるとや毎のいんあうくの
あま祢の志をくたうけうはたしめいらら
あるわらうあはだごうとさうあしよそく
ていひどもうくかくとさいいひくを
それすぐいよままつありて、舞をまひ、さそ
こまども音曲どもそのうちのうち
よりする——女あ——こ——をむす——さく

よ、いひどもたりせうとけいひき、又新ども
よ——とこよちううけいめすしきな
くとあはあつうい——たて其さうこの
うちうり舞ども音曲どもさるまもよゆ
まども、そまむとま——うらあほあ——
らよちううとめちうて、あともはなへとくち
こ——とこま——それか一切あ

ま祿の人祿まづそと物よよくあるやうに
なうふべーけてそれ態マテをすべー

舞者鳥スル根キト聲キ

舞ハ音ありてどの感あるへうは一
のよむひより、舞へうつるさうひよそ妙カ
あるへー、又舞おさむる亦も音感へあまる

位あり柳舞おとと根本如ま花より
おませりとカ、まづみさうよりいづる息
五色よまうまて又音六調子とあるそで
まうまきーうで、是之律ひやうで
まんーま、是二呂むてハ律呂まおるより
いてるゆいれあうなり、まうれハ又花より
あうを出す小五舞とこす人祿を舞と

笛はこのひやうにあつてはまうるまうり
なり是音カよまよまあま又云是私
曲傳也舞よ又智あり一智二舞智三相曲
智四舞舞又舞舞智也一智二合掌の
より五舞とさう一とさういさ舞一とんと序
破急へ舞あまむら曲道を智得するも也
是と一智と云二舞智あると云し舞あま

さし一と云とあつてはまうるまうり
舞よまて舞よ風あるよまやひとあす道あり
喻花鳥の風よ志さうよ餘整あるへ一と
舞と云三相曲智共己前の舞序破急
の間よ舞とそへたり一とさうとそ有文風
舞とあまは文風さうり有文風と相曲よ和合
とさうとさう既見風成就也是面白

見ざる曲也此二道を心得て常曲とあす伎
相曲智と名付四年解風智者此相曲
於有之相合風の心は子を解りて常と用
みと心解風あるへー如此心得るを心解風
智と名付五は常解風智者常と解りて
心と用みとる解風あり是之姿也心解風の
風姿はあて、見るよ胃解は心解風智者相應

なるべきは女解は常解風智者ありて心解の
なり能くおまほの人解よりて凡曲とあす
へきなり又常は目心後と云ふあり目を
常は目と心をうらよとをとりなり是ハ
以常申はる常智風解の用心也見新より
見るところの風姿は我解見也志んは我解の
見る所は我見也解見の見んはあはれ解見

時帝嘗感一事

申樂の嘗たよせし一ものさうと申すは
分るべきよある一もさうと申すは
うる一もさうと申すは
さうと申すは
諸人一同は待てる則ちさうと申すは
人の心を受てさうと申すは

か—もさうと申すは又諸人のさうと申すは
後よりのと申すは万人は感一嘗て時
帝のたゞ見物の人ら様よあり人の様よある
時帝と云者志そのくんより見するま^限ちあり
是万人の心と云平ひとりのかんせいひき
いるまに也當日の大事のまじなりん様
か—もさうと申すは

出づべし二句とて指のはめ舞臺のけり此程
よそ云へし顔とて下りまのすんよあて
はしきとまのるるくくあて顔のしち扱
貴人の御顔よあてしそのまよりつべし
内申樂けりりま等まも大人のし顔のすん
よあてし顔とちて御顔とままのるくは
舞の自持の顔もらよ相意とて袖をこす

のをまもあてがひとてまもまもまも
あふ座式もちりまの座式も酒盤もま
も身ありし相意もるるま終りあてよべし
又舞臺まもまも事柄もての座より舞臺を
まも二程あとのくくまへし又舞臺まもまも
舞出舞止るる舞臺をまも二程と舞臺
舞初舞終へし又大場の申樂よ御前と

オホニキ

オホニキ
メイヤ

オホニキ

オホニキ

近くあるす柳よ心得へ——小場等あつは御前と
遠くを尋へ——ことけつ内申樂等なつはり
よも——御前と遠くあるす柳よ用心まへ——
又内よその音曲等も其座式の人ら心まを
時があるへ——よもまをうくどりかへんし
まうてあるあふへ——まのきと出れよと人の
つよ侍もまを——まのきとまのきまのきまのきま

聲と出へ——まのきと一調二機三声とま
てまのきまのきまのきま

席彼急こま

席はまのきまのきまのきまのきまのきまのきま
席あり直ある中設のはのきまのきまのきまのきま
祝言なるがまのきまのきまのきまのきまのきま

能^子ハ 舞^ブガ ぶりりなるるー 歌^カ舞^ブハ 舞^ブ道の
幸^{カシ}態^シ風^フなりニ番^ニめの申^シ樂^レハ 舞^カまの申^シ樂^レハ
舞^カりたる風^フ舞^ブの幸^{カシ}説^セ正^シくて強^{ツヨク}々と志^シこ
が志^シとやうなる人^ニ風^フ舞^ブなるへー 是^レハ 舞^カまの申^シ樂^レ
ハ 舞^カのまたる風^フ舞^ブの志^シこ末^トのこよこま^コ細^コ
よハ 舞^カりて幸^{カシ}とてい^ハく^ニく^ニく^ニく^ニ時^トがま^マ
なるもま^マも 是^レも末^ト席^シの各^ノ舞^ブの風^フ舞^ブ也^ニ 幸^{カシ}の

ハ 破^レなり 是^レハ 席^シの幸^{カシ}風^フの直^スよこ^シき舞^ブとこ^コは^ハ
あるま^マう^ウー 舞^カりて舞^カ也^ニ 席^シと申^シハを^ヲのつ
く^クの舞^カ破^レハ 又^モこ^コを^ヲ和^ハく^ニ舞^カする志^シこ^コの
舞^カなるも^モりける舞^カハ 幸^{カシ}のめより舞^カハ 舞^カのま^マりよ^ヨ幸^{カシ}と
へ^ヘ 舞^カも舞^カの舞^カ人^ニ風^フ舞^ブなるへー 舞^カを^ヲ目^メみる
か^カよ^ヨの舞^カなるべ^ベー 舞^カの四^シ又^モ幸^{カシ}も^モ破^レの
舞^カなるも^モりける舞^カハ 舞^カのま^マりよ^ヨ幸^{カシ}と

よたよひ急なる能を御意より侍
し心半より人々はのこよめもて心七分
勤を心より猶も奥を能を扱よまを
室の大事ありまぞん能をとり申す早破
急の時方よ成て貴人の御さうらひは御入
めまあまそれいともや申樂なる心よ及へども
貴人の御心を末席也はる程ふ席の御心

よそ急なる能を侍らんとすまをよまて御意
よあはすけつくせんよえつる見えお密も貴人の
御座より皆も機をまづめて座をあらぬ
ていよ成て諸人の心も座式も又席よなる
まききあり世時帝の能はらよらてこす
ける程よ又席よ成りていよ能をまへま
あまがそれよ又何とやん能をまへて

事あり加換する人折をば心ぬく破なる
能のよかんと心成女席ありて志あるよ
し上意ととるべし一の換は貴人の御心を
もつらうし一又座を破急なれば
と志あるを換は古きつともしとるべし一
なむの換は心入てまこと十分よハ
あぶらうし一又志あるにせざる御合の申

樂ありて大御酒の時分等よあらうし一
りして能と仕る事ある一それ又御
座ありて急也仕るべき能ハ席也是又
大事のの候ありし時の申樂とぞ席と仕る
よそが心と破は持て出のこは祿やそわくし
機ともして破急へ早くうつる換は能ととる一
是ハ能の古きつあり然者能よりあるも有へし

又酒盛等もたれり心得破也とや酒盛あり
へとそと集てより心得ありあき拍子よるま
夜言の音曲つれく風の心得る事なれハ
よりのまあるべし志ん心く東の御座ま
あらんハ先の心得をいして急をサ席あり
て古志つとあすへ又西座まの急よあき
くらん時ハ又さきの古志つとて席の心を

サ急よ持てはへし心得急の心得大義
の申樂よりよめて酒盛又ハかきそめなら
音曲の座まよるし次きくと心得べし



